令和２年度　第２回秋田県埋蔵文化財センター運営協議会　要旨

１　日　時：書面開催（令和３年２月２日資料発送、３月３日提言・意見集約送付）

２　委　員：

秋田考古学協会	前会長	小松　正夫	様（委員長）
美郷町立千畑小学校	校長	髙橋　正規	様（副委員長）
柵の案内人　大仙市ほたるの会	会員	大西　英子	様
南教育事務所仙北出張所	所長	加藤　勝則	様
横手市立雄物川小学校	校長	瀬田川　仁	様
大仙市立神岡小学校	校長	田口　雅人	様
大仙市立高梨小学校	校長	照井　政裕	様
仙北地域振興局総務企画部地域企画課	課長	堀川　克利	様
ロード電子工業株式会社	代表取締役社長	山﨑　裕子	様
国立大学法人秋田大学	名誉教授	渡部　育子	様

３　事務局：

磯村　　亨　所長（兼 払田柵跡調査事務所長）
藤原　　健　副所長
柴田　卓也　副主幹（兼）総務班長
袴田　道郎　主任文化財専門員（兼）中央調査班長
村上　義直　副主幹（兼）調査班長
吉川耕太郎　副主幹（兼）資料管理活用班長
谷地　　薫　（兼）文化財主査（本務 払田柵跡調査事務所調査班長）

４　配付資料（目次）：

令和２年度　第２回運営協議会資料
（１）　令和２年度事業報告（調査関係）
（２）　令和２年度事業報告（活用・普及関係）
（３）　令和３年度事業計画案
（４）　その他（新聞掲載記事）

５　御意見・御提言（抜粋）：

- コロナ禍の中にあって、発掘現場から各種企画、そして日常の運営まで大変なご苦労があることと思いますが、多様な提言を取り入れながら、新たなことにもチャレンジし、確かな実績を上げられていることに敬意を表したい。
- 発掘調査はもちろんのこと、イベントも密と熱中症を避けながら、対面で、現地で実施した点は大いに評価されるべきである。現地に立ってみる体験、遺物にさわってみる体験はリモートではできない。

- 毎年の事ながら多くの（活用・普及関係）事業を行っているが、中でも普段あまり目にすることのない発掘調査の写真や出土遺物を展示する「出張展示」は、各地域に住まいする多くの根強い考古学ファンの最大の楽しみになっていると感じている。今後も様々な工夫を取り入れて魅力的な事業として継続してほしい。
- コロナ禍を逆手にとって、人数制限を考慮した上でオンラインによる「巣ごもり払田柵跡サタデーカフェ」等、一味違った手法を取り入れてみるのも一趣向ではないか。
- 今年度の活動にあたって苦労した点、工夫した点などを記録しておくことは、コロナ禍が終息したあとも、何らかの意味をもつものではないかと思われる。
- 各地区小中の社会科研究団体では、夏休み等を活用しての自由研究を奨励し、発表会や作品展などを実施しているが、考古学に関する自由研究をサポートする次のようなプログラムを提案する。①各小中学校や社会科研究会へのちらしの配布と児童生徒の募集、②発掘現場での体験や資料等の作成に関する学習会の実施、③各地区での発表後、模造紙などの作成資料を複製し、センターへ展示する等。児童生徒の考古学への関心を高めるだけでなく、考古学に関わる人づくりにつながる可能性もある。また、このような取組をして好評だった例があることを情報提供することで、学校が主体的に取り組むきっかけをつくっていただきたい。
- 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録、秋田内陸縦貫鉄道「秋田縄文号」のデビュー、さらに周遊マップ「JOMON　MAP」の作成など埋蔵文化財に対する機運が高まっている時宜を得て、サイトにより気軽に見学できる場所や案内ガイドができる場所などの紹介や秋田内陸線や国道105号線（マタギロード）を中心とした県北と県南を結ぶ地域でストーリー性ある企画事業（縄文学びのフォトラリー、秋田の縄文周遊マップづくり（秋田県遺跡地図とは別に）など）を展開していくことも学びの機会の提供（初心者向け）になるものと感じている。

６　センターより（抜粋）:

- 今年度の運営協議会は２回とも書面開催となった。お忙しい中、貴重な御意見、御提言等をお寄せいただき、心より感謝申し上げる。委員の皆様も職場や生活において御苦労されていると推察するが、皆様の前向きな御意見、御提言に頭の下がる思いである。今後も皆様からの御意見、御提言を所内や関係機関と共有し、運営改善につなげて参りたい。
- 運営協議委員の任期は２年なので、この年度末で一旦満了となる。これまでの御協力に重ねてお礼を申し上げるとともに、今後とも当センターに御指導、御協力いただけるよう、お願い申し上げる。